



草 笛

教育目標

～生氣広野に充ちる北の大地に立ち～

1. 考えを深め表現・創造する人間
2. 心豊かに思いやりを実践する人間
3. 自らをきたえたくましく生きる人間

帯広市立帯広第七中学校 学校だより

No.12 令和元年11月15日発行

生徒も先生も本気度Max!

校長 小玉 功

先日、3年生の保護者を対象にした最終的な進路説明会を開催し、今週から三者面談が始まっています。いよいよ15歳の春をどのように迎えるのか、その選択と決定の時期に入りました。

進路説明会の冒頭で、出席された保護者の皆様には、次のようなお話をさせていただきました。

先行き不透明で、めまぐるしく変化するこれからの社会を象徴するような出来事が起きました。大学入試制度の改革に関わる問題です。現在、高校2年生以下の多くの生徒たちが、不安や混乱に巻き込まれています。英語の民間試験の導入や国語や数学等での記述問題の導入は、延期、あるいは今後も議論の継続となり、ともすると今の中3の子どもたちも巻き込まれかねません。

先行き不透明な世の中では、過去、現在、あたりまえとして身に付けてきた価値や未来予測が、あてにならなくなるということです。そうした中で、よりよく生きていくためには、「自分の目指す方向を見つけ、そこに向かい続ける強さ」が求められます。自分の中に、ぶれることのない芯や軸を持つことが大切です。それがないと、世の中の風向きが変わるたびに右往左往するし、何かのせいにしてしまいます。自分のよいところも、よくないところもすべて認め、自分がどんな人間で、何のために、何をしたいのかを問い続け、そのために必要なことを誠実に学び続けることが大切です。

学校は、子どもたちに、「どこの高校に入るか」を目的に進路指導は行っていません。それはどちらかというと学習塾などが行うことです。学校は、子どもたちに、「どんな生き方をし、どんな人間になるのか」を目的に教育活動を行い、生徒の学びを支援し、進路の相談にのってきました。進路の選択・決定に向けて、学校と家庭が情報を共有し、家族が十分に話し合い、そして結論を出していただければと思います。

一方、先生方は、一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにするために、学校全体の教育活動を見直すとともに、一時間一時間の授業改善を進めています。これまで、道徳はすべての先生たちが、加えて特別支援、音楽、数学、今週は、体育、社会、美術の教科で授業研究を行い、その実現に向けた取組を進めています。年内にすべての先生たちが道徳と教科で提案型の授業を行い、それについて検証していく予定です。

3年生の生徒たちは、目の色が変わって勉強に取り組んでいます。先生たちも生徒たちの未来を見据えつつ、本気度100%で課題と向き合っています。

七中生の努力と活躍!

◆第32回中学生からのメッセージ

最優秀賞 1年

「人間力なくして競技力向上なし」

◆第62回NHK杯争奪全十勝アイスホッケー大会

中学生の部

所属 全十勝B 準優勝

◆2019 帯広の森スピードスケート競技会

男子500m

1回目 37秒95

2回目 37秒84

◆全十勝中学生シングルスソフトテニス大会

男子

予選リーグ 3位

◆2019年度 第2回 英検

3級合格

1年

2年

3年



メッセージの内容はもとより、聴き手を意識した声量、表情、視線、そして自分の伝えたいことをしっかりと伝えるための語調や間のとり方、どれをとっても大変素晴らしいかったと審査員の方々からたくさんお褒めの言葉をいただきました。

さんは、来年7月に開催される管内大会に、帯広市の代表として出場します。おめでとう。

英検をはじめ、漢検、文章検定、数検にチャレンジしようとする生徒が増えています。とても素晴らしいことだと思います。

今年度は、どの検定もまだ機会があるので、興味のある、チャレンジしたい生徒は積極的に先生たちに聞きに行きましょう。

エリアで学ぶ児童生徒・保護者対象のスマホ・ケータイ安全教室



KDDI株式会社の大久保輝夫氏をお招きして、10月30日(水)の6時間目に、愛国小学校の5・6年生と大正小学校の5・6年生、そして七中の全校生徒を対象に、スマホ・ケータイ安全教室を開催しました。ここでは、子どもたちに起こりやすいトラブル事例を、怖さを実感できる動画を使って紹介していただき、被害者にも加害者にもならないためのポイントや、万一トラブルに巻き込まれてしまった場合の対処法についてお話いただきました。講話を終えた後、校長室で大久保講師が、「この地域はオンラインゲームをやっている小学生が、かなりいますね。東京などの大都市と比べても多く感じ、危険だと思います。」と忠告してくれました。エリアの中で情報を共有し、対応していきたいと考えています。

夜は、保護者を対象に、子どもたちに起こりうるトラブルの事例をもとにした動画を見ていただき、その危険性について知ってもらうとともに、フィルタリングを設定する大切さなどを学びました。友だちとの交流サイトに見えて、実は出会い系サイトだったり、友だちの現在いる場所がスマホの地図上に表示されるアプリなど、様々な新しく危険な情報をいただき、参加されていた保護者からも、本校の先生方からも、驚きの声が挙がっていました。進化し続けるスマホ・ケータイに、私たちも最新の情報を入れて対応していかなければと思いました。



経営方針

社会に出る力を身に付けた自立した人間としての資質を「認め、支え、高め合う教育」と「師弟同行」によって達成していく。

令和元年度 帯広第七中学校の教育

令和元年11月15日発行

情報発信号

教職員の働き方改革と
生徒のいじめ問題

いじめの問題に係る調査の結果

今年度第2回目の「いじめの問題に係る調査」が終了しましたので、結果をお知らせします。

1 今年4月から今日までで、仲間はずれや無視、暴力、持ち物を隠される・いたずらされる、悪口、メールやネットへの書き込み、無料通話アプリでの仲間はずれや嫌な書き込み等で、嫌な思いをしたことがあるか。

「ある」と回答した生徒は「0人」

※ 6月調査もゼロでした。

2 嫌な思いをした時、誰に相談するか。

1位…学校の先生（82%の生徒）

2位…父や母（80%の生徒）

3位…友人（59%の生徒）

※ 「先生に相談する」と回答した生徒が多くなりました。

先生への信頼感が増しているものと捉え、今後も生徒が安心して登校し、学び、遊ぶことのできる環境づくりに努めていきます。

※ 誰にも相談しないと回答した生徒が「0人」になりました。この結果は、大変嬉しい結果と捉えています。絶対に一人で抱え込まない、自分を守るための行動をとることを卒業後も継続できるよう、指導を続けていきます。

3 今年4月から今日までで、友人が嫌な思いをしているのを見たり、聞いたりしたことがあるか。

「ある」と回答した生徒が「1人」

※ 6月調査では3人でした。丁寧に聞き取りをし、適切に対応していきます。

4 いじめはどんな理由があっても許されないことだと思う。

「よくわからない」と回答した生徒が「1人」

※ 6月調査でも1人でした。

「思わない」と回答した生徒が「0人」

※ 6月調査では1人でした。

今後も、いじめは重大な人権侵害であり、どんな理由があっても許されないことだという認知を全員ができるよう、様々な場面で指導していきます。

この調査は、今回から記名して提出してもらうようにしました。理由は、生徒一人一人への信頼です。信頼感があり、一人一人を尊重するからこそ、あえて記名して提出してもらいました。そしてもう一つの理由は、学校として、生徒から出された結果に対して、素早く適切な対応を行うためです。

「いじめ」は絶対にあってはならないことです。しかし、集団で生活する以上、相手に対して何らかの出来事を発端に、否定感情が湧くことは当たり前、未発達の子どもの中では、いじめ、またはいじめに類するものは、常に起こりうるものという認識を教職員全員が持っています。生徒の表情、態度、言葉、食欲、学習への向かい方、字の乱れなど、常に高いアンテナを張って一人ひとりを観ていく必要があります。

いじめを毅然とした態度で否定できる生徒、何かあった時には自分から助けを求められる生徒にしていくため、学校・家庭・地域が一枚岩で取り組まなければならないと改めて強く認識しています。学校では、教職員すべてに次の指示を出して現在その取組を進めています。

①情報を共有し、すべての教職員が、朝や放課後、授業中、休み時間、給食、清掃、部活動すべての場面で生徒をよく観て、その時その場で指導していくこと。

②数字を真摯に受け止めるのは勿論、数字には出てこない可能性も含めてよく生徒に寄り添い、必要ならば早急に生徒全員と教育相談を行うとか、いじめが起きにくい学年、学校の雰囲気をつくる方策を考え、積極的に実践していくこと。

③「いじめ」が明らかになったものは、直ちに「いじめ防止対策委員会」を開催し、学校として迅速に、組織的に対応すること。

④基本は、すべての生徒の学習権を保障することです。生徒が安心・安全に学校生活を送ることができ、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できる学校づくりを進めていくこと。

保護者の皆様には、あらためてのお願いです。本校の生徒は、嫌な思いをした時、8割の生徒が「父や母」に相談します。

子どもの様子、仕草、そして声に興味を持ち、気になった時には積極的に耳を傾ける、または一緒に子どもと時間を過ごしていただきたいのです。

信頼する保護者がいつも傍にいる、話を聞いてくれる、それらによって、子どもは安心し、気持ちが整理され、辛さ・悲しみ、攻撃性などが鎮まっていく場合があります。学校は積極的に家庭との情報共有に努めていきます。気になることがございましたら、積極的に学校にお知らせください。子どもの安心を確かなものにしていくことが大切です。よろしくお祈りします。

